

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
平成28年度研究開発実施報告書

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「多専門連携による司法面接の実施を促進する  
研修プログラムの開発と実装」

仲 真紀子  
(立命館大学、教授)

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の要約 .....	2
2 - 1. 研究開発目標.....	2
2 - 2. 実施項目・内容.....	2
2 - 3. 主な結果.....	2
3. 研究開発実施の具体的内容 .....	3
3 - 1. 研究開発目標.....	3
3 - 2. 実施方法・実施内容.....	7
3 - 3. 研究開発結果・成果.....	8
3 - 4. 会議等の活動.....	13
4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	15
5. 研究開発実施体制.....	16
6. 研究開発実施者 .....	18
7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	18
7 - 1. ワークショップ等 .....	19
7 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	23
7 - 3. 論文発表.....	25
7 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	26
7 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等.....	30
7 - 6. 知財出願.....	32

## 1. 研究開発プロジェクト名

多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装

## 2. 研究開発実施の要約

### 2 - 1. 研究開発目標

虐待、DV、知人による加害など、親密な関係性の中での被害は発見が遅れがちであり、対応が困難である。特に、福祉、司法といった多専門による面接が多重に行われる結果、供述が変遷し、精神的二次被害が増加し、的確な対応が難しくなるといった問題がある。本プロジェクトでは多専門連携を困難にする心理的要因を調査し、精神的負担に配慮しつつ正確な情報を収集する面接法（司法面接）の習得、そして厚生労働省、警察庁、最高検察庁が推奨する多専門連携による司法面接の実施（協同面接）を支援するプログラムの開発と社会実装を目指す。研修と基礎研究を繰り返しながらプログラムの充実・改善を図り、技能をもつ専門家とトレーナーの育成、実事例の支援を通じて司法面接の実装を促す。また、新たな展開として面接対象の拡大や、予防にも寄与する聞き取りについての検討も行う。さらに、「通訳などの仲介者を要する司法面接」や「司法面接と臨床的ケアの連携」についても研究を行い、司法面接の実務に役立てる。

### 2 - 2. 実施項目・内容

(1) 研修プログラムの開発、(2) 専門家への研修、(3) トレーナーの育成、(4) 現実の司法面接の支援、(5) 司法面接に関わる要素（基礎）研究を進める。

### 2 - 3. 主な結果

以下の結果を得た。

- (1) **研修プログラムの開発**：多専門連携を促す研修プログラムを開発し、実施するとともに、フィードバックを得て改善を図った。
- (2) **研修**：北海道大学を初め56回の研修を行い、1748人の専門家に対し、研修を行った。
- (3) **トレーナーの育成**：トレーナー育成プログラムを実施し、16人のトレーナーを養成した。
- (4) **司法面接の支援**：現実の司法面接ならびに多専門連携の支援を行った。
- (5) **要素（基礎）研究**：各グループで、司法面接の実施や連携に関わる文献研究、資料収集を実施した。多専門連携を阻む要因についての調査、通訳・仲介者を介した面接に関する実験的研究、司法面接と心理臨床の連携に関する調査を準備し、一部データの収集を開始した。得られた知見は研修に反映させ、研修でのフィードバックを基礎研究に投入する。

### 3. 研究開発実施の具体的内容

#### 3 - 1. 研究開発目標

本プロジェクトでは、**児童虐待における初期調査**に中心的な焦点を当てているが、親密な関係性のなかで起きるその他の加害・被害、すなわち、DV、障がい者や高齢者の虐待、学校でのいじめなども視野に入れて実施する。以下、本プロジェクトの背景、問題、ならびに目標について述べる。

##### (1) 背景

「**関係性のなかでの被害**」は発見が難しく、対応が困難である。例えば、平成28年度、児童相談所に寄せられた相談件数は約10万2千件（厚生労働省, 2016）であったが、警察で事件化された事案は約700件であった（警察庁, 2015）。相談所に寄せられる事案と警察に寄せられる事案は必ずしも重なっているわけではなく、また、司法的な介入が常に必要だというわけではない。しかし、児童相談所の「万」のオーダーと、警察での「百」のオーダーのギャップは大きく、厳密な事実確認ができなかったために見守りとなっている事案も多いものと推察される。

こういった難しさの理由としては、第一に、当事者の側における以下のような問題がある（Hershkowitz et al., 2006）。

- 被害者に関係性を維持しようとする心理が働く（経済的基盤がなくなる、相手に悪い、周囲に心配をかける等）。
- 加害者の側の口止めや脅しにより、話さないようにコントロールされている。
- 行為が「しつけ」なのか「加害」なのか（身体虐待、DV）、「愛情」や「遊び」なのか「加害」なのか（性虐待）、加害者にも被害者にも区別がつきにくい。

加えて、幼児、児童や障がいをもつ人においては、的確に報告するということが困難な場合もある（Lamb et al., 2008等）。

しかし、こういった問題はいわば推定変数（介入者・捜査者には変更できない要因）であって、システム変数（捜査法、聴取法等、介入者・捜査者が工夫し、コントロールできる要因）を改善するほか、状況を打開する方法はない。だが、実際には、「関係性」に由来する推定変数はシステム変数である聴取法に影響を及ぼしている。

- 被面接者は上記のような理由のため、話したがらないことが多い。そのために面接者は圧力をかけたり、暗示的、誘導的な質問をしてしまう（「叩かれたんじゃないの？」等）（Ceci et al., 2006; Hershkowitz, 2006; Krähenbühl et al., 2009; 仲, 2012）。
- 1度の面接では確認できず、何度も繰り返し面接を行う。

特に虐待事案では「関係性」が問題となるため、**福祉的な介入**は欠かせない。しかし、併せて**司法的、医療的な介入**も必要となることが多く、その過程で非加害親、児童相談所、警察、検察、医療関係者等が個別に面接を行い、結果的に面接が繰り返されることになりがちである。

## (2) 問題

繰り返し聴取が行われることは、以下のような問題を生み出す。

第一に、報告が不正確になる。面接を繰り返すことにより、面接者の発話に含まれる情報（「白い車だった？」の「白い車」）が被面接者の記憶を汚染したり（事後情報効果）、推論（「もしかしたら白だったかな？」）と体験に混乱が生じる可能性が高まる（リアリティモニタリングの失敗）。また、同じことを重ねて聞かれることにより、「前の答えは違っている」と考えた被面接者が、供述を変えることもある。多くの認知心理学・発達心理学的要因が、報告を不正確にする（レビューとして、仲・上宮, 2005等）。

実際、暗示的な面接が繰り返され、供述の信用性が否定された事例は少なくない。平成25年に判決の出たある事例では、関係性のある知人からの被害（これも「関係性のなかでの被害」である）を訴えた児童が、繰り返し面接を受けた。この供述の信用性は否定されたが、判決文のなかに以下のような文言が示されている（[]は申請者による）。

以上の経緯からすれば、・・・[子ども]らが暗示や迎合により体験していない事柄を供述した疑いを残すというほかない（捜査機関が当初の聴取の際、児童らに暗示・誘導なく自ら話してもらい録音録画し、[関係者]からも[子どもが]供述を始めた状況を誘導なく詳細に聴取して録音録画するなど、真に暗示・誘導がないのであれば、その信用性を担保する方法は存在する。）

第二の問題は、被面接者の**精神的負担**である。事件や事故などのネガティブな体験につき繰り返し聴取を行うことは、精神的な二次被害の原因となり得る（Fulcier, 2004; Committee on the Rights of the Child U.N., 2010）。被害児童からの聴取に当たる警察官によれば、事案が重いと聴取の回数が増え、その過程で精神的な問題を訴えたり被害届を取り下げる被害者もあるという（警察庁, 2012）。

このような状況のなか、誘導・暗示のない聴取を最低限の回数で行い、録音録画によって正確に記録しておくことは、被害発見、的確な介入・支援を可能にし、安全な暮らしの構築につながる。

## (3) 解決への取り組み：司法面接

聴取の難しさという問題を踏まえて開発されたのが「**司法面接**」である。司法面接とは、認知心理学、発達心理学の知見を踏まえ、被害者、目撃者となった子どもから、法的判断にも使用できる精度の高い情報を収集するための面接法である。

司法面接の方法は、以下のようなものである。

- 本題に入る前に、グラウンドルール（面接の約束事：本当のことを話してください、知らないことは知らないと言ってください等）を示し、ラポール（話しやすい関係性）を構築し、出来事を報告する練習（「朝起きてから、今日ここに来るまでにあったことを、どんなことでも全部話してください」）を行った後、面接の本題に入る。これらのステップを踏むことにより、より正確に、より多く話すように被面接者を動機づける。
- 本題においては、オープン質問（「何があったか話してください」「そして？」「それから？」「そのことをもっと話してください」等）を用い、クローズド質問（「A でしたか、B でしたか？」等の閉じた質問）を最低限とする面接を行う。
- 最後は被面接者に感謝し、質問や希望等を受け、面接を終了する（クロージング）。

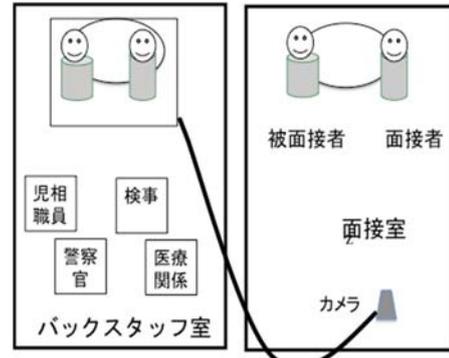


図1: 面接室とバックスタッフ室

司法面接では正確な記録を残すために、面接を録音録画する。また、「面接室」と、面接の様子をオンラインでモニターする「バックスタッフ室」を用いる（バックスタッフとは、福祉、司法、医療等の連携チームのことである）。バックスタッフが面接をモニターし、面接者を支援し、情報を共有することで、効果的な面接やその後の対応が可能になる。また、被面接者は複数の機関で繰り返し面接を受けなくて済む。

司法面接が正確な情報をより多く引き出すことは、多数のフィールド研究や実験室研究により確認されてきた（Lamb et al., 2007, 2008; 仲, 2011等）。研究代表者らは、RISTEX「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域で実施したプロジェクト「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」（平成20年度～平成24年度）において、日本で使用することのできる司法面接法を開発し（作成した司法面接の手順書は

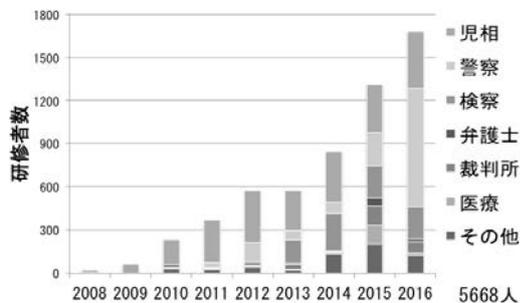


図2: 司法面接研修者の推移

<http://www.nichdprotocol.com>からダウンロードできる）、その後現在まで、実務家に研修を行ってきた（図2）。その結果、平成19年段階では8%であった児童相談所での司法面接の使用が、平成25年では94%となっている（山本, 2012, 2013）。

しかし、児童相談所で司法面接が行われるようになったとしても、問題の十分な解決にはならない。上述のように、「関係性のなかでの被害」は、家庭、施設、ときには学校等での「関係性」が問題となるために、福祉的な対応は必須だが、司法的、医療的な対応が必要な場合もあり、そのためには新たな聴取が行われなければならない。結局のところ、面接が繰り返され、供述は不正確になり、精神的二次被害が生じることになる。

#### (4) 目標

上記のような複数回の面接の問題を解決するには、福祉、司法、関連する専門領域（医療、心理臨床等）の実務家が連携し、司法面接を行うことが有効である。平成27年10月28

日、厚生労働省、警察庁、最高検察庁は、虐待を受けた子どもから事情を聴く際に、児童相談所、警察、検察の職員が連携し、協同して面接をすることなどを求めた通知を都道府県や政令市に出した（厚生労働省, 2015; 警察庁, 2015; 最高検察庁, 2015）。この取り組みは、面接の回数を低減することに大きく貢献するものと予想される。

しかし、福祉や司法の専門家が協同で面接を行うための知識や技能は、必ずしも十分に行き渡っているとはいえない。申請者らは2013年、2014年に186人の専門家（児童相談所職員、警察官、検察官等）を対象とし、「連携を阻む要因」につき自由記述方式の調査を行った。その結果、組織体制の他、立場・目標・方法の違いや、知識・経験がないことが連携を阻むとする意見が多かった（Naka, 2015, 2016）。また、申請者らは2015-2016年、371人の専門家を対象とし、「連携を阻む要因」につき5件法で評定を求めた。そこでも立場・目標・方法の違い、経験や知識の不足が「連携を阻む」とする度合いが高かった。こういった心理的要因は、制度、実務的問題（時間、場所がない等）、実質的問題（上司の許可等）よりも高く評定された。

福祉と司法の専門家が多専門連携につき学び、経験できる研修プログラムの開発、ならびにそういったプログラムの提供は、喫緊の課題である。

このことを踏まえ、本プロジェクトは、RISTEX「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域で実施したプロジェクト「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」（平成20年度～平成24年度）の成果である司法面接法とその研修法を土台とし、また、上記の厚生労働省の取り組みを前提に、次の一步を踏み出す。

その目標は、第一に、福祉、司法、医療等の実務家に対し、司法面接と多専門連携の研修プログラムを開発し、提供すること、第二に、これらの実務家のなかから研修トレーナーを育成すること、そして第三に、現実の事例（実事例）を支援することで「関係性のなかの被害」の正確な確認、適切な介入を推進することである。

「関係性のなかでの被害」への対応は、福祉で補えられないところ（例えば、親が違法な行為を繰り返す）は司法が、司法で補えられないところ（被害届が出され、事件とならないと司法は当事者と関わることができない）は福祉という、福祉と司法の協同、伴走が必要である。多専門連携による初期の被害調査は、後の協力体制にもつながることが期待される。

なお、本プロジェクトでは、新たな展開として、性虐待のみならず、身体虐待やその他の犯罪被害、被疑者や被疑少年、家事事件における聴取、学校でのいじめなどの調査にも一般化できるようなかたちで面接法の拡充や伝達を行っていく。また、面接法の予防的使用についても検討を進める。さらに、以下の二つの特定テーマについても研究を進め、司法面接の社会実装を促す。

(1) 通訳・仲介者のいる面接のあり方と支援：日本で生活する外国人市民の数は増加しているが（平成25年12月末現在、206万6445人（法務省,2014））、日本語が通じないためにトラブルに遭遇する事例、助けを求められず解決が遅れる事例が少なくない。そこで、通訳、仲介者が必要な対象者から情報を聞き出す際の困難点を明らかにし、弊害の少ない司法面接法および研修プログラムを開発する（羽渕グループが担当する）。

(2) 司法面接と心理臨床の連携：被害者対応には、事実確認と心理的ケアの両方が必要であるが、過去の事実を明らかにするという事実確認と、未来に向けての支援である心理的ケアの両方を同時に行うことは容易ではない。そこで、効果的な連携方法を検討し、実

務家への研修等を行い、これを通して研修参加者間での連携の構築を促進する（田中グループが担当する）。

### 3 - 2. 実施方法・実施内容

本プロジェクトでは、3年間の間に以下の活動を行う。

#### (1) 研修プログラムの開発

異なる専門性をもつ実務家が連携して情報収集を行うことができるような、研修プログラムを開発する。実際に多専門の実務家が協同して面接の計画を立て、実施することができるような研修を行い、そこでのフィードバックを受けて、教示やプログラムの内容を改善する。（主として、仲グループが担当する）

#### (2) 研修

実務家が司法面接と多専門連携を体験し、習得できる研修を実施する（主として、仲グループが担当するが、要素研究を生かした研修については羽渕グループ、田中グループでも実施する）。

#### (3) トレーナーの育成

司法面接研修を受けた者に研修スタッフとして参加してもらい、トレーナーとして育成する。具体的には半日の「トレーナー研修」を行い、トレーナー向けの教材を開発する。また、こういったトレーナーが各機関等で研修を行えるように面接キットの作成、提供、技術支援を行う（主として、仲グループが担当する）。

#### (4) 司法面接の支援

現実の司法面接ならびに多専門連携の支援を行う。支援は、面接室や機材の提供、連携のコーディネート、司法面接の計画、実施、バックスタッフ支援、ならびに評価を含む（主として、仲グループが担当する）。

#### (5) 基礎（要素）研究

司法面接の実施に関わる基礎（要素）研究を行う。具体的には、以下のようなものが含まれる。

- ① 多専門連携を阻む要因や、専門家による虐待認知（どのような行為を虐待だと認識しているか）の違いの調査：前者については、自由記述を求めた予備調査の結果を踏まえ、リカート法尺度により回答を求める方法で多専門連携を阻む要因や、職種等による違いを明らかにする。後者については、虐待事案に対する福祉、司法の専門家の見方を調べる。いずれの調査においても、専門間でギャップがある場合、ギャップをなくすというのではなく、むしろ立場の違いであることを強調し、連携を強める支援を行う。これらの知見は研修に反映させるとともに、研修で得られたフィードバックを基礎研究に投入する。子どもの報告の促進に関わる知見も収集し、必要に応じて実験的にも検討する（主として、仲グループが担当する）。
- ② 司法面接を行う前段階に関する調査：司法面接はより正確な情報をより多く聴取することを目指す面接法であるが、そもそも虐待等の通報・通告、あるいは情報提供がなければ実施することができない。また、通報・通告、あるいは情報提供の前に被害者の記憶が汚染されると、司法面接で得られる情報の正確さも下がる。司法面接に至る前の課題について知見を得るために、田村PJと協力し「通告を阻む要因」につき調査を行う。
- ③ 通訳・仲介者を介した面接：通訳・仲介者が必要な場面における司法面接法の開発と

訓練（研修）プログラムを開発する。具体的には、羽渕（H26-27科研費「新学術領域研究」成果）の「外国人留学生に対する面接のガイドラインの開発」、松尾（H26-27科研費「新学術領域研究」成果）の「目撃者遂行型調査の効果の検討」の成果に基づき、通訳や仲介者が必要な対象者に対して弊害が少なく、かつ、現場での実用性を備えた司法面接法の素案（Ver.1）を作成する。また、この素案に「日本語を母語としない対象者の日本語会話能力を簡便に査定する方法の開発」および「通訳・仲介者の効果的な介入方法の開発」についての実験的研究を行い、日本語を母語としない対象者に特化した司法面接法を開発する。これらの活動と平行して、多専門連携に向けて、研究会参加等で実務家との交流の輪を拡げ、現場のニーズや現状の問題点とのズレや漏れを確認し、修正して面接法および研修プログラムの開発に反映させる（主として羽渕グループが担当する）。

- ④ 司法面接と心理臨床の連携：事実確認と臨床ケアの違いや連携に関わる問題を明らかにし、連携を可能にするプログラムを開発する。まず、事実確認と臨床ケアの「協働と連携」を阻む問題や、司法面接と臨床的介入がどのような形態で行われているかの現状について調査を行う。ここには、虐待や性被害等にかかわる実務家（福祉・心理・医療の専門家）を対象とした、被害の疑いを感じたときの対応や、被害の事実確認を行うことによる心理面への影響等についての聴取が含まれる。また、逐次専門家を対象とした研修を行い、子どもと関わる実務家に情報提供を行い、事実確認と心理的ケアに関する多職種連携の促進につながる働きかけを試みる。これらを踏まえ、受容的聴取と客観的聴取において得られる情報の違いについて、実験的検討を行うとともに、得られた知見を研修プログラムの開発に反映させる（主として田中グループが担当する）。

### 3 - 3. 研究開発結果・成果

平成28年度は以下のように研究を進めた。まず、図3により概要を示し、その上で各グループの取り組みについて述べる。表中の(1) - (5)は上記3-2の各項目を表す。■は必ずしも回数/数を示すものではない(■■■は「多数回」を意味する)。

実施項目 (数値は28年度)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
司法面接・多専門連携研修 ・58回(約2千5百人)の研修 (2)	■ ■ ■	■ ■ ■	□ □ □	□ □ □
トレーナー養成 ・プログラムの作成(1) (3)		■ ■ ■	□ □ □	□ □ □
現実の面接・連携の支援 (4) ・83件の支援	■ ■ ■	■ ■ ■	□ □ □	□ □ □
政策提言・制度化の試み ・24回の講演シンポ等 ・機関協力2件	■ ■ ■	■ ■ ■	□ □ □	□ □ □
基礎(要素)研究：多専門連携・通告を阻む要因の調査 (5) ①②		■ ■ ■	□ □ □	□ □ □

・調査研究実施・報告 ・研修フィードバック	■	■ ■ ■	□ □ □	□ □ □
基礎（要素）研究：通訳・仲介者を介した面接（5） ・資料収集 ・実験研究 ・研修フィードバック	■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	□ □ □ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □ □ □
基礎（要素）研究：司法面接と臨床支援の連携（5）④ ・資料収集 ・実験・調査研究 ・研修フィードバック	■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	□ □ □ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □ □ □
成果のまとめ（出版等）				□ □ □

**図3: 研究開発結果・成果の概要**

(1) 仲グループ：多専門連携による司法面接の推進と実事例支援

■ **プログラムの開発（1）と研修（2）**

多専門連携の有用性への気づきを高めると考えられる講義、演習を実施した。具体的には、以下のような方法を用いた。具体的には以下の通りである。

- 厚生労働省による「いちはやく」（児童相談所全国共通ダイヤル：189）の取り組みで述べられている、身体的虐待ならびに性的虐待の内容を示し、親密圏における加害、被害には福祉、司法の両アプローチが必要であることを強調する。
  - 身体的虐待：殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせる、首を絞める、縄などにより一室に拘束する など
  - 性的虐待：子どもへの性的行為、性的行為を見せる、性器を触る又は触らせる、ポルノグラフィの被写体にする など

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/dv/about.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/about.html)
- 福祉的対応は家族を支援し、必要であれば「子ども」を分離するアプローチであるのに対し、司法的対応は、「加害者」を排除するアプローチであることに言及し、目標は同じでもアプローチの仕方が異なることを強調する。
- 事実確認のために収集すべき情報に関し、司法的に有用な情報と、福祉的に有用な情報を区別し説明する。
- 連携を阻む要因に関する知見（要素研究）や、申請者が経験・聴取した課題、解決法、「立場の違いがあるからこそ連携する意義がある」というリフレーミング、各地のよき実践（都道府県における機関連携の仕方、行政・司法・福祉を巻き込んだ研修実践等）について説明する。
- 研修は4人のチームで行うが、このチームを可能な限り多専門連携とした。また、研修で作られた関係性が実践に移行することを目指し、可能な場合には、同じ地域の異なる機関からの参加者がチームを形成するように図った。

- 研修では、これまでに行ってこなかった「職業」を含めた自己紹介、異なる立場を踏まえた演習を実施した。具体的には、(1) ロールプレイ面接の計画を協同で立てる、(2) ロールプレイ面接の振り返りで、異なる立場の専門家からの意見（今後それぞれの立場で、当該の事案に対しどのようにアプローチするか）を求める。

以上のほか、多専門連携を行う上でアウトリーチをすることが望ましい対象について、実務家、専門家から意見を聴取した。

### ■ トレーナーの育成 (3)

北海道大学で実施した3回の研修を通じ、16人のトレーナーを育成した。内訳は、研究者3人、司法関係者7人、福祉関係者4人、医療関係者2人である。

育成プログラムの内容は、Naka (2014、2015) に基づき、日本で司法面接の研修を実施する際の注意点（チームによるアプローチ、エピソード記憶と意味記憶の区別、カウンセリングと司法面接の区別、質問の種類）についての講義、ならびにロールプレイの教示とフィードバックの与え方について演習を行うというものであった。

承諾が得られたトレーナーについては、ウェブを通してトレーナーの氏名、所属、守備範囲等を公開し、研修依頼が受けられるようにした。

### ■ 司法面接の支援 (4)

平成28年4月～29年3月までに延べ83件につき相談、支援を行った。このなかで、福祉と司法の連携の仕方、年少者、外国人、障がいをもつ児童や成人の面接、被疑者・被疑少年の面接に関わる示唆を得た。

### ■ 要素（基礎）研究 (5)

以下の4項目につき要素研究を行った。

- 調査・実験研究：①多専門連携や司法面接を阻む要因につき、継続して調査を行い、一部発表した。②虐待認知調査（ネグレクト、心理、身体、性虐待につき、対応や生起頻度等に関する認識を調べる）を行うための質問紙を作成し、調査を開始した。③通告・通報を阻む要因につき、調査を開始した。
- 執筆：①研修プログラムの開発や研修方法を、本にまとめた。②多専門連携を阻む要因、臨床心理学との接点、録音録画面接や面接の方法につき、論文を執筆した。

### ■ その他（アウトリーチ）

以下のような活動を実施した。

- 発達心理学会（2016年4月29-5月1日）におけるチュートリアル、International Congress of Psychology（2016年7月25-29日）におけるシンポジウム等を通じ、国内外の研究者に対し司法面接に関する知見を提供した。また、本プロジェクトの羽渕グループ、田中グループとの連携でシンポジウム等を実施した。
- 社会実装を目指し、児童相談所職員、警察官、検事、弁護士、教員、臨床心理士等を対象に、シンポジウム、講演、研修等を実施した。  
また、司法面接に関するメディア発信を行った。

## (2) 羽瀨グループ：通訳・仲介者のいる面接のあり方と支援

### ■研修（2）

平成28年4月～29年3月までに6件について参加、協力を行った。

### ■要素（基礎）研究（5）

以下の5項目について、通訳や仲介者の介入が必要な対象者から弊害が少なく、かつ、現場での実用性を備えた情報収集法の研究と開発を行った。

- ① NICHD プロトコルを用いた日本語による司法面接時の特徴の抽出
- ② 日本語を母語としない対象者の日本語会話能力を簡便に査定するツールの開発
- ③ 通訳介入が必要な外国人に対する司法面接法の開発
- ④ やさしい日本語版 SAI（Self-Administered Interview）の開発
- ⑤ 多言語（中国語、韓国語、ベトナム語）版 SAI の作成

### ■その他（アウトリーチ）

以下のような活動を実施した。

- International Congress of Psychology（2016年7月25-29日、神奈川県横浜市）において、国内外の研究者に対して研究成果の発表をおこなった。
- 法と心理学会（2016年10月15-16日、大阪府茨木市）において、ワークショップを開催し、法と心理学分野の研究者および実務家に対して問題提起をおこなった。
- 通訳介入が必要な外国人に対する司法面接検討会（2017年2月10日、愛知県日進市）を開催し、通訳の実務家および専門家を招いて、日本語を母語としない対象者から情報を聞き出すための方法について情報収集をおこなった。

## (3) 田中グループ：司法面接と心理臨床の連携

### ■プログラムの開発（1）研修（2）

- 平成28年4月から平成29年3月までに家庭裁判所や警察学校において4件の司法面接研修を実施した。また、多機関連携（特に事実確認と心身のケアの連携）をテーマとする実務家研修プログラムを実施し、全国から福祉・心理・法曹・医療・教育関係の実務家30名の参加があった。

### ■資料収集（5）

国内での様々な機関における虐待対応に関する資料収集や海外での多機関連携をテーマとした研修資料の検討を行った。あわせて、多機関連携をテーマとする研修参加者に対し、連携に関するアンケートを実施した。

### ■要素（基礎）研究（5）

以下につき要素研究を行った。

- 調査・実験研究：①聴取方法の違いによる語りの差について検討した。②司法面接にかかわる実践の現状と多職種連携のありよう・試み・意識に関するインタビュー調査を行った。③養護教諭志望学生と保護者に対し、子どもとのコミュニケーションについての意識調査を行った。④司法面接後の再認成績について、オープン質問の効果について学会発表を行った。
- 執筆：家庭裁判所における司法面接の活用について論文を執筆した。

#### ■ その他（アウトリーチ）

以下のような活動を行った。

- 本プロジェクトの仲グループ、羽渕グループと連携し、International Congress of Psychology（2016年7月25-29日）におけるシンポジウム、法と心理学会（2016年10月15 - 16日）におけるワークショップ等を通して、国内外の研究者に対し司法面接に関する知見を提供した。
- 教員と養護教諭志望学生への講演、対人援助職を希望する大学院生への指導を行った。また、調査・実験研究に参加した幼児の保護者50名へ「子どもから話を聴く」ことについての資料を作成し、配布した。

#### 3 - 4. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2016/04/30	研究打ち合わせ	札幌市内	田中グループ H28年度の実施項目（田中晶子、安田）
2016/06/03	研究打ち合わせ	大阪市内	田中グループ 連携研修打ち合わせ（田中晶子、安田）
2016/06/18	研究相談	東広島市内	法と心理学会ワークショップについて（羽渕・赤嶺）
2016/06/19	研究相談	東広島市内	法と心理学会ワークショップについて（仲・羽渕）
2016/06/27	6月研修前会議	北海道大学	6月研修および今後の司法面接研修などの打ち合わせ（仲、羽渕、安田、武田、名畑、高橋、尾山、立花）
2016/07/01	研究打ち合わせ	大阪市内	田中グループ 連携研修打ち合わせ（田中晶子、安田）
2016/07/28	事前会議	パシフィコ横浜	ICP2016 Thematic Session 事前打ち合わせ（仲・羽渕・松尾・名畑・田中晶子）
2016/07/29	会議	パシフィコ横浜	H28年度の後半計画打ち合わせ（仲・羽渕・松尾・三浦・田中晶子・安田・名畑・赤嶺・高橋）
2016/08/10	研究打ち合わせ	大阪市内	田中グループ 連携研修の打ち合わせ（田中晶子、安田）

2016/08/20-23	羽渕グループ研究合宿	慶應義塾大学	SAIコーディング研修、司法面接研修、研究打ち合わせ (仲・羽渕・松尾・三浦・赤嶺)
2016/09/02	研究打ち合わせ	徳山大学	調査計画について(羽渕・立部)
2016/10/16	研究打ち合わせ	立命館大学茨木キャンパス	SAI実験、通訳介入司法面接研究打ち合わせ(羽渕・赤嶺)
2016/10/17	10月研修前会議	北海道大学	10月研修の打ち合わせ(仲、武田、名畑、高橋、尾山、立花)
2016/10/19	10月研修後会議	北海道大学	10月研修の反省会(仲、武田、名畑、高橋、尾山、立花)
2016/10/29	研究相談	JST東京本部	研究相談(仲・羽渕)
2016/10/30	会議	茨木市内	今後の研究打ち合わせと情報交換 (羽渕・田中晶子・安田・上宮・高橋)
2016/11/01	仲グループ水戸会議	水戸家庭裁判所	水戸研修と今後の研究の打ち合わせ(武田、田中周子)
2016/11/15	研究打ち合わせ	徳山大学	司法面接実験打ち合わせ(羽渕・立部)
2016/11/25	研究打ち合わせ	大阪市内	田中グループ H28年度の実施項目(田中晶子、安田)
2016/11/28	11月研修前会議	北海道大学	11月研修および今後の司法面接研修などの打ち合わせ(仲、羽渕、赤嶺、武田、名畑、高橋、尾山、立花)
2016/11/30	11月研修後会議	北海道大学	今後の司法面接研修などの打ち合わせ(仲、羽渕、赤嶺、立部、武田、名畑、高橋、尾山、立花)
2016/12/02	研究打ち合わせ	名古屋市内	実験打ち合わせ(羽渕・松尾)
2016/12/03	事後会議	名古屋学芸大学	実験後検討会(羽渕・松尾・赤嶺)
2017/01/24	研究打ち合わせ	大阪市内	連携研修の意見交換、H29年度実施項目(上宮、田中晶子、安田)
2017/02/07	研究相談	北海道大学	H29年度研究相談(仲、松尾、武田、名畑)
2017/02/10	検討会	名古屋学芸大学	通訳介入司法面接検討会(羽渕・赤嶺・上宮)
2017/02/14	研究打ち合わせ	大阪市内	田中グループ H29年度の実施項目(田中晶子、安田)
2017/02/16	全体会議の後会議	フクラシア東京	全体会議の振り返りと29年度の計画(仲、羽渕、田中晶子、武田)
2017/02/17	研究相談	慶應義塾大学	H29年度研究計画相談(羽渕・松

			尾)
2017/03/03	研究打ち合わせ	慶應義塾大学	計画の打ち合わせ (羽渕・松尾・三浦)
2017/03/07	研究打ち合わせ	慶應義塾大学	計画の打ち合わせ (羽渕・松尾・三浦)
2017/03/08	研究打ち合わせ	北海道大学	計画の打ち合わせ (羽渕・赤嶺)
2017/03/08	田村PJ共同企画後の会議	北海道大学	多職種連携と29年度の計画 (仲、羽渕、田中晶子、安田、赤嶺、田中周子、武田、名畑、高橋、尾山、立花)
2017/03/09	研究相談	慶應義塾大学	H29年度研究計画相談 (羽渕・松尾・三浦)
2017/03/15	研究打ち合わせ	大阪市内	連携研修の意見交換、H29年度の実施項目 (田中晶子、安田)
2017/03/17	研究打ち合わせ	名古屋市内	H29年度の研究計画 (羽渕・赤嶺)
2017/03/18	研究打ち合わせ	名古屋学芸大学	H29年度の研究計画 (羽渕・赤嶺)
2017/03/20	研究打ち合わせ	慶應義塾大学	H29年度の研究計画 (羽渕・松尾・三浦)
2017/03/21	研究打ち合わせ	東京都内	H29年度の研究計画 (羽渕・松尾)
2017/03/29	研究打ち合わせ	徳山大学	H29年度の研究計画 (羽渕・立部)

#### 4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 司法面接の実施：約7割の児童相談所で司法面接を実施している（北海道新聞、2015等）。
- 司法面接の活用：録音録画面接が裁判での証拠として採用される事案が出てきた。北海道新聞（2016）によれば、旭川、高松、徳島、那覇の4つの地方裁判所で、録音録画面接が証拠として採用された。その結果、子どもへの尋問は実施されなかった。

#### 5. 研究開発実施体制

##### (1) 仲グループ

- ① 仲 真紀子（北海道大学、教授）
- ② 実施項目

- 研修：連携に向けたプログラムを作成し、実施し、フィードバックを得た。
- トレーナー育成：トレーナー育成プログラムの作成に着手した。
- 事例支援：実事例への対応と事例的検証。
- 要素研究：プログラムを構成する基礎研究として、文献レビューを行い、関連図書の翻訳を行った。また、虐待認知について調査票を作成し、データの収集を開始した。
- アウトリーチ：著書、論文、講演、シンポジウム、機関への協力、メディア発信等により成果を発信した。
- マネジメント：羽渕グループと田中グループの研究支援を行った。

## (2) 羽渕グループ

### ①羽渕 由子（徳山大学、教授）

#### ②実施項目：通訳・仲介者のいる面接のあり方と支援

概要：通訳・仲介者を介して司法面接を行う場合の特徴を明らかにし、弊害が少なく、効果的な聴取方法を検討するために、以下の研究・開発を行った。

- 要素研究：通訳、仲介者のいる面接について情報収集を行った。また、通訳や仲介者の影響、日本語を母語としない対象者から情報を収集するための方法について、以下のような研究・開発をおこなった。
  - ・ NICHHDプロトコルを用いた日本語による司法面接時の特徴の抽出
  - ・ 簡易型日本語会話能力判定ツールの開発
  - ・ 通訳介入が必要な外国人に対する司法面接法の開発
  - ・ やさしい日本語版SAIの開発
  - ・ 多言語（中国語、韓国語、ベトナム語）版SAIの作成
- アウトリーチ：ワークショップ、シンポジウム、学会発表等により成果を発信した。

## (3) 田中グループ

### ①田中 晶子（四天王寺大学、准教授）

#### ②実施項目：司法面接と心理臨床の連携

- 多機関連携（特に事実確認と心身のケアの連携）をテーマとする実務家研修を実施した。
- 資料収集：国内外における連携研修（事実確認と心身のケアを含む）の形態について情報収集を行った。
- 実験研究：聴取法の違いによる情報の違いについて実験を実施した。
- 調査研究：多職種連携のありよう・試み・意識に関するインタビュー調査、子どもとのコミュニケーションについてのアンケート調査を実施した。
- アウトリーチ：ワークショップ、シンポジウム、学会発表等により成果を発信した。

## 6. 研究開発実施者

研究グループ名：仲グループ

	氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
○	仲 真紀子	ナカ マキコ	立命館大学	総合心理学部	教授
	武田 知明	タケダ トモア キ	北海道大学	大学院文学研究 科	博士研究員
	名畑 康之	ナバタ ヤスユ キ	北海道大学	大学院文学研究 科	学術研究員
	高橋 文代	タカハシ フミヨ	北海道大学	大学院文学研究 科	学術研究員
	立花 恵里佐	タチバナ エリ サ	北海道大学	大学院文学研究 科	研究補助員
	尾山 智子	オヤマ トモコ	北海道大学	大学院文学研究 科	学術研究員
	田中 周子	タナカ シュウ コ	立正大学	心理臨床センター	非常勤相談員
	上宮 愛	ウエミヤ アイ	名古屋大学	環境学研究科	博士研究員

研究グループ名：羽渕グループ

	氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
○	羽渕 由子	ハブチ ヨシコ	徳山大学	福祉情報学部	教授
	立部 文崇	タテベ フミタカ	徳山大学	経済学部	准教授
	赤嶺 亜紀	アカミネ アキ	名古屋学芸大 学	ヒューマンケア学 部	准教授
	松尾 加代	マツオ カヨ	明治大学	研究・知財戦略機 構	客員研究員

研究グループ名：田中グループ

	氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
○	田中 晶子	タナカ アキコ	四天王寺大学	人文社会学部	准教授
	安田 裕子	ヤスタ ユウコ	立命館大学	総合心理学部	准教授

## 7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 7-1. ワークショップ等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2016/04/04 -05	鳥取県弁護士会 研修	鳥取県	約30名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/05/17 -18	秋田県警察 研修	秋田県	32名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/05/19	警察大学校 (特捜研) 研修	東京都	約30名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/06/04	かわさき市民アカデミー 研修	神奈川県	約30名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/06/27 -29	北海道大学 6月 司法面接トレーナー研修	北海道北海道大学	9名	司法面接 (NICHD) トレーナー研修
2016/06/28 -29	北海道大学 6月 司法面接研修	北海道北海道大学	45名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/07/07 午前	神奈川県警 研修	神奈川県	約60名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/07/08 午後	神奈川県警 研修	神奈川県	約60名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/07/20	北海道警察学校 研修	北海道	50名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/07/21	法務総合研究所研修	東京都	約30名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/07/26	北海道警警察学校 司法面接講演	北海道	約60名	司法面接 (NICHD) に関する講演
2016/08/26	札幌地方検察庁 研修	北海道	24名	司法面接 (NICHD) 研修

2016/08/29	北海道警察学校 研修	北海道	178名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/08/30	札幌弁護士会 研修	北海道	約30名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/08/31 -09/01	埼玉児童相談所 研修	埼玉県	26名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/09/06	北海道 障がい者保健福祉課 研修	北海道	36名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/09/07	名古屋家庭裁判所調査官自庁研修	愛知県	22名	司法面接 (NICHD) 研修「子の認知発達と司法面接の基礎」／田中晶子
2016/09/09	裁判所職員研修所 研修	埼玉県	約30名	家裁調査官への司法面接 (NICHD) 研修
2016/09/13	長崎地方検察庁 研修	長崎県	28名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/09/20 -21	青森県警察 研修	青森県	124名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/09/26 -27	広島県西部こども家庭センター 研修	広島県	40名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/09/26	大阪家庭裁判所自庁研修	大阪府	30名	司法面接 (NICHD) 研修「司法面接の技法を学ぶ(実践編2)」／田中晶子
2016/10/03 -04	2016年度10月東海地方合同 司法面接 (NICHDガイドライン) 研修	愛知県	49名	司法面接 (NICHD) 研修／上宮 愛
2016/10/04	高知児童相談所 研修	高知県	36名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/10/09 -10	滋賀児童相談所 研修	滋賀県	32名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/10/12	長野県警察 研修	長崎県	69名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/10/17 午後	北海道警察学校 研修	北海道	93名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/10/17 -19	北海道大学 10月 司法面接トレーナー研修	北海道 北海道大学	9名	司法面接 (NICHD) トレーナー研修
2016/10/18 -19	北海道大学 10月 司法面接研修	北海道 北海道大学	43名	司法面接 (NICHD) 研修

2016/10/26 -27	栃木県児童相談所 研修	栃木県	26名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/10/30	子どもと関わる実務家のための研修	大阪府 立命館大学 大阪 茨木キャンパス	31名	「虐待を受けた子どもへの支援：被害確認と心身のケア 多職種専門家における効果的な連携の在り方について」／田中 晶子、安田 裕子、上宮 愛
2016/11/01	水戸家庭裁判所研修	茨城県	23名	司法面接 (NICHD) 研修／田中周子
2016/11/09	福岡地方検察庁 研修	福岡県	54名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/11/16	法務総合研究所 研修	東京都	44名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/11/21	北海道警察 函館方面本部 研修	北海道	33名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/11/24	前橋地方検察庁 研修	群馬県	32名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/11/25	兵庫児童相談所 研修	兵庫県	30名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/11/29	兵庫県警性犯罪捜査専科 研修	兵庫県	24名	司法面接 (NICHD) 研修「被害を受けた子どもへの聴取法について」／田中晶子
2016/11/28 -30	北海道大学 11月 司法面接トレーナー研修	北海道 北海道大学	13名	司法面接 (NICHD) トレーナー研修
2016/11/29 -30	北海道大学 11月 司法面接研修	北海道 北海道大学	44名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/12/01	北海道警察学校 研修	北海道	約150名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/12/03 +12/10	岐阜県児童相談研究セミナー「被害確認面接 (NICHDガイドライン) を学ぶ」	岐阜県	24名	司法面接 (NICHD) 研修／上宮愛
2016/12/05	NPO法人SOS総合相談グループ 研修	東京都	22名	NPO法人SOS総合相談グループ法務部会相談員対象の司法面接 (NICHD) 研修／田中周子

2016/12/14 -15	熊本児童相談所 研修	熊本県	40名	司法面接 (NICHD) 研修
2016/12/19 -20	名古屋地方検察庁 研修	愛知県	79名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/01/06	養護教諭志望学生のための講演	大阪府	35名	司法面接 (NICHD) 研修「子どもから事実を聴くためのコミュニケーション：子どもの供述に関わる心理学の立場から」 ／田中晶子
2017/01/06	警察大学校（特捜研）研修	東京都	約50名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/01/16 -17	京都児童相談所 研修	京都府	29名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/01/19	宮城児童相談所 研修	宮城県	約30名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/01/23 -24	石川児童相談所 研修	石川県	48名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/01/25	北海道警察学校 研修	北海道	約150名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/01/26	愛知県警察学校 性犯罪捜査専科c 研修	愛知県	20名	司法面接 (NICHD) 研修「子どもへの司法面接：NICHDプロトコル」 ／上宮愛
2017/02/22	和歌山家庭裁判所 研修	和歌山県	14名	司法面接 (NICHD) 研修「子の認知発達と司法面接の基礎」 ／田中晶子
2017/02/25 -26	千葉児童相談所 研修	千葉県	36名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/02/27	和歌山児童相談所 研修	和歌山県	55名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/03/04	被害者支援センターすてっぷぐんま 研修	群馬県	28名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/03/10	札幌地方検察庁 研修	北海道	約20名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/03/13 -14	宮崎児童相談所 研修	宮崎県	43名	司法面接 (NICHD) 研修

## 7-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

### (1) 書籍、DVD

- ・子どもへの司法面接：考え方・進め方とトレーニング., 仲真紀子（編著）・名畑康之・尾山智子・鈴木愛弓・杉村智子・上宮愛・五十嵐典子・二口之則・小山和利・千田早苗・武田知明・山本渉太・田鍋佳子・佐々木真吾・緑大輔., 有斐閣, 2016.
- ・記憶., 田島 信元・岩立 志津夫・長崎 勤（編）新・発達心理学ハンドブック., pp.352-363., 仲真紀子., 福村出版., 2016.
- ・Where developmental psychology meets the law: Forensic Interviews with witnesses and alleged child victims. pp.251-264. (Japan Society of Developmental Psychology, Shizuo Iwatate, Masuo Koyasu, and Koich Negayama. Eds.) Frontiers in Developmental Psychology Research: Japanese Perspectives., Tokyo: Hitsuji Shobo., Naka, M., 2016.
- ・供述分析としての鑑定., 橋本和明（編著）犯罪心理学鑑定の技術., pp.205-226., 仲真紀子., 金剛出版., 2016.
- ・司法面接., 日本犯罪心理学会（編）犯罪心理学事典., pp.240-243., 仲真紀子, 2016.
- ・第8章 供述の妥当性評価., 太幡直也・佐藤拓・菊地史倫（監訳）嘘と欺瞞の心理学対人関係から犯罪捜査まで虚偽検出に関する真実., pp.245-324., 上宮 愛., 福村出版., 2016.
- ・第7章 子どもの目撃記憶と被暗示性: セシとブルックのレビュー（1993）再訪., 加藤弘通・川田学・伊藤崇（監訳）発達心理学・再入門: ブレークスルーを生んだ14の研究., pp.121-144., 上宮 愛., 新曜社., 2017.
- ・子どもの目撃証言., 越智敬太（編）犯罪心理学., 仲真紀子., 北大路書房., 印刷中.
- ・「子どもへの司法面接」., 稲葉（編）ワードマップ., 仲真紀子., 信曜社., 印刷中.
- ・「対話」., 発達心理学会（編）発達心理学事典., 仲真紀子., 丸善., 印刷中.
- ・Memory practice in society: Eyewitness memory in children and investigative interviews. T. Tsukiura, and S. Umeda (Eds.) Memory in Social Context: Brain, Mind, and Society., Naka, M., Springer., 印刷中.
- ・録音録画面接における子どもの供述-質問の仕方, カメラパースペクティブ, 専門家証人が信用性判断に及ぼす効果-, 上石圭一・大塚浩・武蔵勝宏（編）現代日本の法過程-その構造と動態-宮澤節生先生古稀記念論文集., 仲真紀子., 信山社., 印刷中.

### (2) ウェブサイト構築

- ・本プロジェクト ホームページ <http://forensic-interviews.jp>（2016年10月／既存の北海道大学内のホームページ情報を、北海道大学外部のサーバに移行。httpsなどを用いてセキュリティなどを改善した）

### (3) 学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・大阪弁護士会. 可視化本部・子どもの権利委員会共催・義務化対象研修.取調べ対応欲張り研修~, 面接の分析. 接見に使える面接技法と取調べ録画DVDの活用法を学ぶ., 仲真紀子., 5月24日, 2016., 大阪府.
- ・UNAFFEI : United Nations Asia and Far East Institute 国連アジア極東犯罪防止

- 研究所., 北大司法面接研修., 仲真紀子., 6月8日-9日, 2016.
- 2016年度SANE養成講座（ゆいネット）., 司法面接①② -事実調査のための面接-. , 仲真紀子., 7月3日, 2016., 北海道.
  - 札幌市教育委員会., 子どもから どう話を聴くか -司法面接を参考に-. , 仲真紀子., 7月12日, 2016., 札幌市.
  - (公社)北海道家庭生活総合カウンセリングセンター・北海道被害者相談室 犯罪被害者等支援直接支援員養成講座カリキュラム., 被害者の心理 (2) -司法面接を参考に-. , 仲真紀子., 8月29日, 2016., 北海道.
  - H28年度子ども理解に関わる研修会.H28年度少年実務研究会., 子どもの供述と司法面接., 仲真紀子., 9月15日, 2016., 埼玉県司法研修所.
  - 第70回中国地方弁護士大会., 基調講演. 司法面接の基礎と展開., 仲真紀子., 10月14日, 2016., 鳥取県立県民文化会館.
  - 精神医学会シンポジウム「性的虐待の被害児童を支援する～福祉・医療がするべきこと～」., 性的虐待の調査（司法面接）と多機関連携. 児童青年精神医学とその近接領域., 仲真紀子., 10月28日, 2016., 岡山県.
  - 佐賀県弁護士会., 司法面接研修., 仲真紀子., 11月7日, 2016., 佐賀県.
  - 学術講演会「第15回北海道地区会議学術講演会貧困と人の育ちー人文社会科学からの挑戦ー」., 仲真紀子., 11月15日, 2016., 北海道大学学術交流会館・小講堂.
  - 武庫川女子大学H28年度臨床教育シンポジウム., 子どもと司法 協同面接の取り組みから見えてきた 司法面接と多機関連携の重要性., 仲真紀子., 11月26日, 2016., 武庫川女子大学.
  - 日本学術会議 子どもの成育環境分科会主催「子どもの貧困ー成育環境に及ぼすその影響と対策について考える」シンポジウム., 「子ども時代の逆境的体験（ACE）」と貧困： 逆境的体験から子どもを救う目と耳と心., 仲真紀子., 2月28日, 2017., 日本学術会議講堂.
  - 恵庭市要保護児童ネットワークの実務者会議., 子どもへの司法面接 ー何が起きたかを 子どもから聞く技術ー., 仲真紀子., 3月23日, 2017., 恵庭市.

### 7-3. 論文発表

#### (1) 査読付き ( 6 件)

##### ●国内誌 ( 3 件)

- 仲真紀子 (2016) ., シンポジウム「司法面接をどう使うか ースキル,連携,法制度ー」企画趣旨., 法と心理, 16(1), p.23.
- 仲真紀子 (2016) ., 司法面接の展開：多機関連携への道程., 法と心理, 16(1), pp.24-30.
- 羽瀨由子・赤嶺亜紀・安田裕子・田中晶子・仲 真紀子・三原 恵・主田英之（投稿中）., 第17回 法と心理学会ワークショップ報告 多専門・多職種連携による司法面接の展開：通達からの1年を振り返り, 今後の展開を考える., 法と心理.

##### ●国際誌 ( 3 件)

- La Rooy, D. Brubacher, S. P., Aromäki-Stratos, A., Mireille Cyr, Hershkowitz,

- I., Jo, E., Korkman, J., Malloy, L., Myklebust, T., Naka, M., Peixoto, C., Roberts, K., Stewart, H., & Lamb, M. E. (2016)., NICHD Protocol, Interviewing, Forensic, Children, Justice, Evidence based practice., Journal of Criminological Research, Policy and Practice.\*
- Matsuo, K. & Miura, H. (2016)., Effectiveness of the Self-Administered Interview and drawing pictures for eliciting eyewitness memories., Psychiatry, Psychology and Law. [Advance online publication] doi:10.1080/13218719.2016.1254587
  - Matsuo, K. & Itoh, Y. (2017)., The effects of limiting instructions about emotional evidence depend on need for cognition., Psychiatry, Psychology and Law. [Advance online publication] doi:10.1080/13218719.2016.1254588

(2) 査読なし ( 4 件)

- 仲真紀子 (2016)., 子どもへの司法面接～その必要性と方法～., 捜査研究, 782(2016.3.5), pp.46-53.
- 仲真紀子 (2016)., 記憶はどのように伝えられるか-子どもへの司法面接と多機関連携による協同面接.森政 (編)., 臨床心理学, 95, pp.549-553.
- 田中晶子 (2016)., 家庭裁判所における子どもの心情・意向調査への司法面接の活用., 四天王寺大学紀要62号, pp.81-94.
- 仲真紀子 (印刷中)., 精神医学会シンポジウム「性的虐待の被害児童を支援する～福祉・医療がすべきこと～」性的虐待の調査(司法面接)と多機関連携., 児童青年精神医学とその近接領域.

**7-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)**

(1) 招待講演 (国内会議 0 件、国際会議 2 件)

- Naka, M.( Hokkaido University)., The use of forensic interviews with alleged child victims/witnesses in a MDT team in Japan., In Invited Symposium: The investigative interviewing of suspects and witnesses/victims. [Organizer] Bull, Ray (Universities of Derby and Leicester (United Kingdom)) ., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan)., 16:00 - 18:00, July 26, 2016.
- Naka, M.(Hokkaido University)., Keynote: Forensic interviews with witnesses and alleged child victims: Research and Practice - Multi Disciplinary Team Approach in Japan., The 10th East Asian Association of Psychology and Law conference., Jeju, Korea., Oct 23. 2016.

(2) 口頭発表 (国内会議 15 件、国際会議 10 件)

- 仲真紀子 (北海道大学)., チュートリアル: 司法面接の基礎, 応用と現在の問題., 日本発達心理学会第27回大会., 北海道大学., 12:00 - 14:00, 4月30日, 2016.
- 上宮 愛.(浜松医科大学)., 子どもへの事実確認のための面接技法: 司法面接法の開発とその実装., 日本発達心理学会第27回大会ラウンドテーブル『記憶と学びの生涯発達から見る発達研究(3): 児童・成人・高齢者の記憶』., 北海道大学., 13:00 - 15:00, 5月

1日, 2016.

- Naka, M.( Hokkaido University), Introduction to Keynote Address by Loftus, Elizabeth, F. "The Memory Factory"., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan), 12:00 - 12:40, July 26, 2016.
- Isaka, K.(Hokkaido University), Naka, M., &Michimata C., Effects of background information on identification/interpretation of the central figure., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan) ., 14:40 - 16:10, July 26, 2016.
- Sasaki S.(Koen Gakuen Women's Junior College), Grain size of children's report: Development in regulating skills, executive functions, metacognitive awareness, and verbal ability., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan), 08:30 - 10:00, July 27, 2016.
- Naka, M.( Hokkaido University), Itoh, Y.,& Matsuo, K., Diversity In Harmony Symposium: Psychology and Law in Japan: From the Lab to Applied Knowledge in the Criminal Justice System (Symposium sponsored by Japanese Society for Law and Psychology), The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan), 10:50 - 12:50, July 28, 2016.
- Naka, M.( Hokkaido University), The use of forensic interviews with alleged child victims and witnesses in Japan., In Diversity In Harmony Symposium: Psychology and Law in Japan: From the Lab to Applied Knowledge in the Criminal Justice System (Symposium sponsored by Japanese Society for Law and Psychology), The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan), 10:50 - 12:50, July 28, 2016.
- Naka, M.( Hokkaido University), Introduction to Keynote Address by Ray, Bull "Research on improving the interviewing of suspects"., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan), 16:20 - 17:00, July 28, 2016.
- Habuchi, Y. (Tokuyama University), Characteristics of non-native speakers' eyewitness reports on events and proposal for forensic interviews., In Thematic session: How to Overcome the Language Barriers in a Multi-language Society -- When a foreign resident encounters an incident or an accident., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan), 10:20 - 11:50, July 29, 2016.
- Matsuo, K. (Keio University), & Miura, H., A tip to resolve the language barriers for interview: Introducing "the Self-Administered Interview"., In Thematic session: How to Overcome the Language Barriers in a Multi-language Society -- When a foreign resident encounters an incident or an accident., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan), 10:20 - 11:50, July 29, 2016.
- Tanaka, A.(Shitennoji University), Interviewing children- from a viewpoint of NICHD investigative interview protocol., In Thematic session: How to overcome

the language barriers -When a vulnerable people in terms of communication encounters an incident or an accident., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan)., 10:20 - 11:50, 10:20 - 11:50, July 29, 2016.

- ・山本渉太（北海道大学）・仲真紀子・岩見広一., 捜査面接における警察官のラポール形成戦略（3）., 日本犯罪心理学会第54回大会., 大会プログラムp.25., 9月4日, 2016.
- ・山本渉太（北海道大学）・村橋美知子・渋谷友祐・山元 修一・仲 真紀子（北海道大学）., 聴取者の態度・外見的特徴が事情聴取時の被聴取者の協力的態度に与える影響（2）., 第12回東北心理学会・北海道心理学会合同大会（北海道心理学会第63回大会）., 福島大学., 10月1日,2日, 2016.
- ・仲真紀子（北海道大学）., 外傷体験（トラウマ）の記憶を特別だとする信念 - 司法の場面で -, In シンポジウムII(北海道心理学会事務局企画) 自伝的記憶とネガティブ事象・震災に関わる記憶をどう考えればよいか .,第12回東北心理学会・北海道心理学会合同大会（北海道心理学会第63回大会）., コラッセふくしま., 10:00 - 12:00, 10月2日, 2016.
- ・仲真紀子（北海道大学）., 多専門・多職種連携による司法面接の展開—通達からの1年を振り返り, 今後の展開を考える—., 羽瀧由子・赤嶺亜紀・安田裕子・田中晶子・仲 真紀子. 企画, 指定討論., 法と心理学会第17回大会., 立命館大学大阪いばらきキャンパス., 10:00 - 12:00, 10月16日, 2016.
- ・廣井亮一・村瀬嘉代子・二宮周平・山口直也・安田裕子(立命館大学)., （公開シンポジウム）子どもをめぐる法と心理臨床., 法と心理学会第17回大会., 立命館大学大阪いばらきキャンパス., 13:30 - 16:30,10月16日, 2016.
- ・Banjaya,H.(Hokkaido University) and Naka, M., The relationship between autistic tendencies and the occurrence of Verbal Overshadowing Effect., The 10th East Asian Association of Psychology and Law conference, Jeju, Korea., Oct 23, 2016.
- ・仲真紀子（北海道大学）., 性的虐待の調査（司法面接）と多機関連携., 児童青年精神医学会シンポジウム 性的虐待の被害児童を支援する～福祉・医療がすべきこと～., 第57回日本児童青年精神医学会総会., 岡山コンベンションセンター., 10月28日, 2016.
- ・伊東裕司・仲真紀子（北海道大学）・箱田裕司., 日本心理学会公開シンポジウム・社会のための心理学シリーズ「裁判員の判断を左右するもの～罪を裁く人の心～」., 北海道大学., 11月13日, 2016.
- ・松尾加代（慶應義塾大学）., 裁判員の事実認定に影響を及ぼす要因とそのメカニズム., 日本心理学会公開シンポジウム・社会のための心理学シリーズ「裁判員の判断を左右するもの～罪を裁く人の心～」., 北海道大学., 11月13日, 2016.
- ・名畑康之（北海道大学）., 裁判員の情報処理スタイルが目撃証言の信用性判断に及ぼす影響., 日本心理学会公開シンポジウム・社会のための心理学シリーズ「裁判員の判断を左右するもの～罪を裁く人の心～」., 北海道大学., 11月13日, 2016.
- ・伊東裕司・仲真紀子（北海道大学）・箱田裕司., 日本心理学会公開シンポジウム・社会のための心理学シリーズ「裁判員の判断を左右するもの～罪を裁く人の心～」., 慶應義塾大学., 12月11日, 2016.
- ・松尾加代（慶應義塾大学）., 裁判員の事実認定に影響を及ぼす要因とそのメカニズム., 日本心理学会公開シンポジウム・社会のための心理学シリーズ「裁判員の判断を

左右するもの～罪を裁く人の心～」., 慶應義塾大学., 12月11日, 2016.

- ・名畑康之(北海道大学) ., 裁判員の情報処理スタイルが目撃証言の信用性判断に及ぼす影響., 日本心理学会公開シンポジウム・社会のための心理学シリーズ「裁判員の判断を左右するもの～罪を裁く人の心～」., 慶應義塾大学., 12月11日, 2016.
- ・仲真紀子(北海道大学) ., 日本発達心理学会からの海外情報発信—英書刊行をステップに飛躍を一., 日本発達心理学会出版企画委員会. 指定討論., 日本発達心理学会 第28回大会., 広島国際会議場, JMSアステールプラザ, 広島市文化交流会館., 13:00 - 15:00, 3月25日, 2017.

(3) ポスター発表 (国内会議 13 件、国際会議 4 件)

- ・田中晶子(四天王寺大学)., 司法面接後の再認課題における判断—6～7歳児と大学生における比較—., 日本発達心理学会第27回大会., 北海道大学., 10:00 - 12:00, 4月29日, 2016.
- ・佐々木真吾(光塩学園女子短期大学)・仲真紀子., 想起のコントロールの発達に関わる認知的要因の検討 —実行機能, 言語能力, および想起時のメタ認知的思考—., 日本発達心理学会第27回大会., 北海道大学., 13:30 - 15:30, 4月29日, 2016.
- ・田鍋佳子(北海道大学)・仲真紀子., 母親はどのように子どもから事件を聞き取るか(2)., 日本発達心理学会第27回大会., 北海道大学., 12:00 - 14:00, 4月30日, 2016.
- ・三浦大志(慶應義塾大学)・松尾加代・伊東裕司., 認知スタイルの差異が目撃者遂行型調査に及ぼす影響., 日本認知心理学会第14回大会., 広島大学., 14:00 - 16:00, 6月18日, 2016.
- ・Yamamoto, S.(Hokkaido University), Naka, M., Wachi, T., Watanabe, K., Yokota, K., & Tominaga, R., Effects of rapport building strategies and questioning styles on the investigative interview: Part 3., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan)., 16:30 - 17:30, July 27, 2016.
- ・Habuchi, Y. (Tokuyama University)., The development of forensic interview method targeting non-native speakers: Review on utilizing the Japanese version of NICHD Protocol., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan) ., 16:30 - 17:30, July 27, 2016.
- ・Yasuda, Y. (Ritsumeikan University)., Troubles and tasks of the support for victims received damage of domestic violence (DV): Toward the view to support lives of sufferers in community., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan)., 09:30 - 10:30, July 28, 2016.
- ・Murai, F.(Hokkaido University), Kato, H., & Naka, M., "Kyara" (a Japanese Term for Simplified Personality) and the Multiple Self in Japanese Adolescents., The 31st International Congress of Psychology., Pacifico Yokohama Conference Center. (Yokohama, Japan)., 10:30 - 11:30, July 28, 2016.
- ・菅美知子・山本渉太(北海道大学)・山元 修一., 聴取者の態度・外見的特徴が事情聴取における被聴取者の協力的態度に与える影響(1)., 日本犯罪心理学会第54回大会., 13:30 - 15:30, 9月4日, 2016.

- ・武田知明（北海道大学）・仲真紀子（北海道大学）., 司法面接で聴取される情報の記録・整理のためのアプリケーションの作成., 日本教育工学会 第32回全国大会., 大会プログラムp.327-328., 大阪大学豊中キャンパス., 9月17日, 2016.
- ・佐々木 真吾(光塩学園女子短期大学)・仲真紀子（北海道大学）・田鍋佳子（北海道大学）., 保育者志望学生への司法面接研修の効果., 日本教育心理学会第58回総会., 15:30 - 17:30, 10月8日, 2016.
- ・田中晶子(四天王寺大学)., 司法面接における子どもの語り一面接者の働きかけが子どもの語りに及ぼす影響について., 法と心理学会第17回大会., 立命館大学大阪いばらきキャンパス., 11:30 - 12:30, 10月15日, 2016.
- ・羽渕由子（徳山大学）・立部文崇（徳山大学）., やさしい日本語によるSAI（Self-Administrated Interview）の開発., 2016年度 日本語教育学会 中国地区研究集会., 山口大学., 12月10日, 2016.
- ・仲真紀子（北海道大学）., 司法面接に関わる多機関連携:有用性、実施状況と阻む要因—事実確認に携わる専門家の意識—., 日本発達心理学会 第28回大会., 広島国際会議場・JMSアステールプラザ・広島市文化交流会館., 10:00 - 10:50, 3月25日, 2017.
- ・番匠谷博之（北海道大学）・仲真紀子., 自閉性傾向が言語隠蔽効果に与える影響の検討., 日本発達心理学会 第28回大会., 広島国際会議場・JMSアステールプラザ・広島市文化交流会館., 10:00 - 10:50, 3月26日, 2017.
- ・村井史香・仲真紀子（北海道大学）., 未来の出来事に対する予測の正確さと抑うつ傾向との関連 —抑うつリアリズムの観点から—., 日本発達心理学会 第28回大会., 広島国際会議場・JMSアステールプラザ・広島市文化交流会館., 11:00 - 11:50, 3月25日, 2017.
- ・立部文崇（徳山大学）., 外国人生活者に対する「簡易版」口頭能力判定項目の選定について., 2016年度日本語プロフィシエンシー研究会., 里山の休日京都・烟河., 3月26日, 2017.

## 7-5. 新聞報道・投稿、受賞等

### (1) 新聞報道・投稿（ 7 件）

- ・北海道新聞 朝刊全道（総合）., 4月3日, 2016., <異聞風聞>若者たちの「逆襲」が始まる!?.
- ・読売新聞 東京朝刊（生活）., 8月20日, 2016., 虐待や性被害 子ども聴取 心の傷に配慮 児相、検察、警察 いずれかの代表で.
- ・北海道新聞 朝刊全道（生活・くらし）., 9月22日, 2016., 成人年齢を20歳から18歳へ引き下げの影響は 犯罪増加の恐れ.
- ・東京新聞 夕刊., 9月29日, 2016., 虐待児の聴取法学んで 子ども負担減らす「司法面接」 北海道大・仲真紀子教授 本で紹介.
- ・北海道新聞 夕刊全道（社会）., 10月24日, 2016., 犯罪情報 子どもから正確に聞き取り 司法面接の進め方 一冊に 北大大学院・仲教授 制度解説、実践法も.
- ・聖教新聞（6面）., 1月15日, 2017., 安田裕子・戸田有一（記事） 家庭は子どもの安全基地（上）.
- ・聖教新聞（6面）., 1月22日, 2017., 安田裕子・戸田有一（記事） 家庭は子どもの

安全基地（下）。

(2) 受賞（ 0 件）

(3) その他（ 21 件）

- ・仲真紀子., 自著を語る「子どもへの司法面接：考え方・進め方とトレーニング」., 書齋の窓., 有斐閣., 2016.
- ・仲真紀子., コラム14 子どもから正確に話を聴くには. 総合心理学部演習ガイドブック., 立命館大学., p.46., 2016.
- ・高山恵子・仲真紀子., いい出会いいい言葉で幸せな人生をつくる①., 教育ジャーナル 2016年8月号, p.31 教育ジャーナル「カリスマティックアダルト」., 2016.
- ・仲真紀子., 学術講演会開催報告：第15回北海道地区会議学術講演会 貧困と人の育ち-人文社会科学からの挑戦-, 日本学術会議北海道地区会議ニュース, No. 46(2016-3), pp.5-8., 2016.
- ・仲真紀子・柏木恵子・根ヶ山光一・高橋恵子., 人間の命と死, そして心——『人口の心理学へ』が問いかけるもの (1) ., ちとせプレス., 8月10日, 2016., <http://chitosepress.com/2016/08/10/2069/>
- ・仲真紀子・柏木恵子・根ヶ山光一・高橋恵子., 人間の命と死, そして心——『人口の心理学へ』が問いかけるもの (2) ., ちとせプレス., 8月25日, 2016., <http://chitosepress.com/2016/08/25/2143/>
- ・仲真紀子・柏木恵子・根ヶ山光一・高橋恵子., 人間の命と死, そして心——『人口の心理学へ』が問いかけるもの (3) ., ちとせプレス., 9月02日, 2016., <http://chitosepress.com/2016/09/02/2174/>
- ・仲真紀子・柏木恵子・根ヶ山光一・高橋恵子., 人間の命と死, そして心——『人口の心理学へ』が問いかけるもの (4) ., ちとせプレス., 9月16日, 2016., <http://chitosepress.com/2016/09/16/2266/>
- ・仲真紀子., 事件, 事故のことを子どもからどう聴き取ればよいか?——子どもへの司法面接 (1) ., ちとせプレス., 11月08日, 2016., <http://chitosepress.com/2016/11/08/2407/>
- ・仲真紀子., 事件, 事故のことを子どもからどう聴き取ればよいか?——子どもへの司法面接 (2) ◆事実について報告を求める., ちとせプレス., 12月16日, 2016., <http://chitosepress.com/2016/12/16/2500/>
- ・仲真紀子., 事件, 事故のことを子どもからどう聴き取ればよいか?——子どもへの司法面接 (3) ◆世界の司法面接., ちとせプレス., 2月10日, 2017., <http://chitosepress.com/2017/02/10/2640/>
- ・仲真紀子., 事件, 事故のことを子どもからどう聴き取ればよいか?——子どもへの司法面接 (4) ., ちとせプレス., 3月24日, 2017., <http://chitosepress.com/2017/03/24/2683/>
- ・仲真紀子., プロジェクト「多専門連携による司法面接の実施を促進する 研修プログラムの開発と実装」始動に当たって., Newsletter, JST RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 1, p.1., 9月, 2016.

- ・仲真紀子., 研究グループの紹介 1-仲グループ・司法面接支援室-. Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 1, p.2., 9月, 2016.
- ・羽渕由子., 研究グループの紹介 2-羽渕グループ-. Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 1, p.3., 9月, 2016.
- ・田中晶子., 研究グループの紹介 3-田中グループ-. Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 1, p.4., 9月, 2016.
- ・上宮愛., 各地での司法面接研修-東海地方 4 県合同・司法面接研修-. Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 2, p.1., 2月, 2017.
- ・田中周子., 各地での司法面接研修-水戸家庭裁判所・司法面接研修-. Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 2, p.1., 2月, 2017.
- ・田中晶子., 司法面接と心理臨床の連携と多職種連携-子どもと関わる実務家のための研修-. Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 2, p.2., 2月, 2017.
- ・羽渕由子., 多専門・多職種連携による学会報告., Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 2, p.3., 2月, 2017.
- ・武田知明., 北海道大学・司法面接研修レポート., Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 2, p.4., 2月, 2017.

## 7-6. 知財出願

国内出願 (  0  件)